

三翠化学会

(題字は稲川先生)
 第54号
 平成16年6月30日発行
三翠化学会
 津市上浜町1515
 三重大学農芸化学コース内
 電話/津(059)232-1211
 振替/名古屋9-59345
 印刷/株式会社あるも
 TEL(052)332-0861 大8 長谷川 正一

平成16年度 総会・懇親会開催 三翠化学会

恩師の先生方も多数参加されます

うとうとう季節となりましたが、会員の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、三重大学もこの四月より法人化し、国立大学法人三重大学として再スタートしました。また、生物資源学部におきましては、学科改組後の一期生を社会に送り出すことができました。

しかしながら、昨年度に

おきましては、新体制移行への取り組みのため、予定をされておりました本同窓会の親睦行事や新聞の発行ができず、会員の皆様にご迷惑をおかけしました。誠に申し訳ございませんでした。

このような経緯から、過日行われました役員会・評議員会にて、本年度総会をより一層盛り上げるため、本同窓会の総会・懇親会を親同窓会である三翠化学会の総会に併せて行うのではなく、化学会単独で開催することが決定されました。

会場は久しぶりに母校三重大学生物資源学部です。平素は、なかなかお会いすることができない恩師の先生方にも多くご参加いただければと考えております。

なお、当日は三重県支部総会も併せて開催します。皆様のご出席をお待ちしております。

三翠化学会会長 福田 映

記

【日時】平成16年7月31日(土)
 11～14時
 受付開始10時30分

【場所】
 ○総会および三重県支部総会(11～12時)
 三重大学生物資源学部大講義室
 ○懇親会(12～14時)
 三重大学生協第一食堂
 【会費】3,000円

関西支部会だより

来賓に、福田三翠化学会会長(大1)、古市幸生三重大学教授(大13)、西川司朗三重大学教授(大20)をお迎えし、支部会員四十一名の出席のもと第4回総会を午前十一時からホテルクライオン新大阪で開催した。

総会は関小田副支部長(大28)の開会の辞で始まり、支部長挨拶、来賓代表挨拶(福田三翠化学会会長)に引き続き議事に入った。議長に大10回卒の杉山氏を選出し、会務(支部長)及び会計(細見会計担当)を審議、承認された。

暫時休憩の後、本支部初めての企画である産・学分野三先生による談話会に

産・官・学三分野の情報交換を 目指した談話会を試行

懇親会は約一時間遅れで始まったが、前回以上に大いに盛り上がった。終わりに三翠応援歌を斉唱してお開きとなった。

参考までに、総会出席者四十一名の分布は、専1 3・十二名、大1 10・十名、大11 20・六名、大21 30・九名、大31 40・三名、大41 2名であった。

●支部長挨拶(要旨)
 いまや、大学は法人化を目前に大きな変遷点に差し掛かっています。大学の真価が問われ、その評価は今まで以上に厳しくなっており、大学の発展は教職員、卒業生、学生の三位一体の協力無しには成し遂げられないのであります。卒業生たる者、母校の発展を祈らない者はありません。

●支部長挨拶(要旨)
 今こそ、卒業生が結束、強固なマトリックス構造を持つた同窓会を構築し、同窓会活動を通して母校の発展と充実に寄与すべき時期であります。

こうした場合、本日の支部総会には大きな意義をもっているものであります。関西支部の目玉・独自性について検討しました結果、意見相互の切磋琢磨・連携と交流促進の一環として、今年度から産・官・学三分野の情報交換をめざす談話会を企画しました。今回はその手始めとして、産代表に大1卒の福田三翠化学会会長、学代表に大13回卒の古市、大20回卒の西川両教授に講師をお願いしました。本日の談話会が関西支部、



秋晴れのよき日、ホテルクライオン新大阪で午前十一時から、福田三翠化学会会長挨拶後、議長に大10回卒の杉山氏を選出し、議事に入った。会務報告に続く会計・監査報告の場で、支部運営協力費は五十七名の会員から百六十四口の協力を得た旨の報告があった。

案件審議の結果、承認された。役員改選で、支部長に嶋林(専1、大2)、副支部長に小林(大12)並びに関小田(大28)を選出後、支部長委嘱による幹事二十二名が承認された。

十二時から約四十分の予定で談話会に入った。今回は農業・雑草学の国際的権威の松中昭一先生にお願いし、「農業は怖い存在か?」と題するミニ講演をしていただいた。わかり易く、そして密度の高い談話会で、出席者一同深い感銘を受けた。時間の都合上意見交換を制限せざるを得なかったのが残念であった。

席を改めて、記念撮影方メラは大15内田氏、後、懇親会をもった。広島からの里村(専1)氏の乾杯により宴に入った。先輩後輩の区別無く談話風、懇親会は例年に無く盛り上がった。来賓及び年齢層別スピーチはすこぶる好評であった。肩を組みあい、懐かしさの三翠応援歌(リーダ大29岩田氏)で意気大いに挙げた。総会出席者二十八名の分布は、専1 3・十一名、

第5回総会 平成15年11月8日(土)

秋晴れのよき日、ホテルクライオン新大阪で午前十一時から、福田三翠化学会会長挨拶後、議長に大10回卒の杉山氏を選出し、議事に入った。会務報告に続く会計・監査報告の場で、支部運営協力費は五十七名の会員から百六十四口の協力を得た旨の報告があった。

案件審議の結果、承認された。役員改選で、支部長に嶋林(専1、大2)、副支部長に小林(大12)並びに関小田(大28)を選出後、支部長委嘱による幹事二十二名が承認された。

十二時から約四十分の予定で談話会に入った。今回は農業・雑草学の国際的権威の松中昭一先生にお願いし、「農業は怖い存在か?」と題するミニ講演をしていただいた。わかり易く、そして密度の高い談話会で、出席者一同深い感銘を受けた。時間の都合上意見交換を制限せざるを得なかったのが残念であった。

席を改めて、記念撮影方メラは大15内田氏、後、懇親会をもった。広島からの里村(専1)氏の乾杯により宴に入った。先輩後輩の区別無く談話風、懇親会は例年に無く盛り上がった。来賓及び年齢層別スピーチはすこぶる好評であった。肩を組みあい、懐かしさの三翠応援歌(リーダ大29岩田氏)で意気大いに挙げた。総会出席者二十八名の分布は、専1 3・十一名、

談話会講師
 松中昭一先生のプロフィール
 1927年9月津市に生まれる。海軍兵学校、阪大(工)醸酵工学科、同大学院を経て、1955年農林省農技研に入所、生理遺伝部第2・第6研究室長として活躍後、1978年神戸大学農学部教授、1991年関西大学工学部教授を歴任され、1998年退職。この間、農業学及び雑草学分野の教育・研究面で多大の功績をあげられ、日本農業学会業績賞、アメリカ雑草学会名誉賞、日本農学賞、科学技術庁長官賞を受賞。また、第15期、第16期日本学術会議会員として、更には1982年から1990年にわたり、国際雑草学会、日本農業学会、日本雑草学会各学会長に就任され、学会の発展に尽力、1998年紫綬褒章を受章される。雑草防除大要、植物毒理学入門、Integrated Control of Weeds、新農学シリーズ、日本における農業の歴史ほか多数の著書を発表。【註】先生は、1947年4月から1949年3月の間、三重農専農産製造科に在籍された関係上、専1～専3の三翠化学会会員とは旧知の間柄です。

支部長に嶋林氏(専2)を再選 談話会は「農業は怖い存在か?」

お蔭をもちまして、本支部総会は第5回目を迎えることが出来ました。二年前の第3回総会で因らずも支部長の大役を仰せつかってから早くも二年が経ちました。光陰矢の如し「を実感している昨今であります。この間大過なく務めることが出来たのは、偏に支部会各位並びに役員各位のご理解とご協力及び親同窓会のご指導の賜物と感謝しています。振り返るに、支部の目玉として、会員相互の切磋琢磨・連携と交流を目指した談話会の企画と実施並びに支部活動に最低必要な財源確保の為の支部運営協力費制度の発足が最も印象的でありました。第2回目を迎えた今年の談話会は、農業・雑草学の国際的権威の松中先生に講師をお願いする事が出来ました。一方、運営協力費は、会員各位のご協力のもと、五十七名の方にご賛同を頂きました。心して有意義な支部活動に充当してまいります。

●支部長挨拶
 所存であります。本日予定している議題は会務報告、会計報告及び役員改選であります。慎重に審議いただきます。個人個人の力は知れませんが、総合力はとてつもない威力を発揮します。会員並びに役員が一致団結して支部発展にがんばるうではありませんか。

●支部長挨拶
 本支部の発展が会員各位の向上につながり、それが又支部の発展につながっていくのであります。同窓会が単に卒業生の心によりどころだけではない同窓会、つまり関西支部が頼りになる支部にもっていくにはどうしたらよいか。これが私ども同窓生に課せられた重要検討課題と受け止めています。その一環として、これからの二年間は①会員相互の情報交換、②談話会の充実、③財政基盤の強化の三本柱を中心とした支部活動を展開してまいります。会員各位のご理解と自覚を、そして、執行部へのご指導、ご鞭撻を切望いたしまして再任の挨拶と致します。

【②面に関連記事】

多数参加されます。皆様の「ご出席をお待ちしています

小宮孝志先生「ご退官祝賀会

生物資源学部教授小宮孝志先生（食品機能化学教育研究分野、旧農芸化学コー

先生は昭和四〇年三月に名古屋大学農学部を卒業され、同大学院修士及び博士課程を終え、四五年七月三

研究面では、澱粉の物性に

去る二月十七日に学内の

また、年度があけて、五

贈呈され、万歳三唱で会を



小宮先生の挨拶、数本の乾杯の御祝辞をいただき、その後、歓談のひとときをもちました。途中、卒業生等から集めた記念品代を

応用微生物学研究室（現在は微生物工学研究室に名称変更）教授の大宮邦雄先生は本年三月をもって、定年退官されました。

先生は、昭和三八年に名古屋大学農学部畜産学科を卒業になられた後、同大学院農学研究科農芸化学専攻に進学され、博士の学位

任され、その後十三年半に

での爆発事故があったことは新聞等で報告されましたが、先生は事故調査委員会の一員として調査に当たられ、微生物による水素ガス

先生は、三重大を退官

大宮邦雄先生「ご退官祝賀会

生物資源学部教授小宮孝志先生（食品機能化学教育研究分野、旧農芸化学コー

先生は昭和四〇年三月に名古屋大学農学部を卒業され、同大学院修士及び博士課程を終え、四五年七月三

研究面では、澱粉の物性に

去る二月十七日に学内の

また、年度があけて、五

湯の山温泉に集う

卒業以来各方面で頑張っている我々が後進に道を譲る時も近づいて来ました。そこで、四年間の学生生活を送った懐かしい思い出の地「伊勢の国」で、今度こそ、これからの支えをいただくべく、奥様共々ゆつたりとした一時を過ごすことに、ご指導ご鞭撻をお願いしたいと思います。

北陸路宇奈月温泉に集う

我々の殆どは、定年を迎え自由な時を過ごしているものと思っていたが、元気の働き者が多く、インドへ出張中、アフリカザ

大11

我々農芸化学科11回生は、平成一五年一〇月二日、富山県黒部峡谷宇奈月温泉にてクラス会を開催する。黒部峡谷の入り口にあたる宇奈月温泉は、紅葉の始まりであった。

大14

山脈最高峰、御在所岳の山懐にいだかれた湯の山温泉となり、同地区では最も格



高橋、中川、村田、でした。

大9

農化大9回生のクラス会を、平成一四年一〇月八日（金）三河湾に浮かぶタコの島として有名な日

大11

平日の開催と遠隔地のため参加が出来なかつた仲間たちに申し訳なく思う。

大14

しんだ後ホテルで遠来の友を迎え、さあ、クラス宴会の始まりはじまり！

大9

外に忙しい人が多いようで二十八名中出席が十八名、欠席が十二名でした。

大9

農化大9回生のクラス会を、平成一四年一〇月八日（金）三河湾に浮かぶタコの島として有名な日

大11

平日の開催と遠隔地のため参加が出来なかつた仲間たちに申し訳なく思う。

大14

しんだ後ホテルで遠来の友を迎え、さあ、クラス宴会の始まりはじまり！

大9

外に忙しい人が多いようで二十八名中出席が十八名、欠席が十二名でした。

大9

農化大9回生のクラス会を、平成一四年一〇月八日（金）三河湾に浮かぶタコの島として有名な日

大11

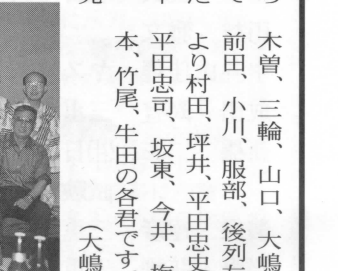
平日の開催と遠隔地のため参加が出来なかつた仲間たちに申し訳なく思う。

大14

しんだ後ホテルで遠来の友を迎え、さあ、クラス宴会の始まりはじまり！

大9

外に忙しい人が多いようで二十八名中出席が十八名、欠席が十二名でした。



木曾、三輪、山口、大嶋、前田、小川、服部、後列左より村田、坪井、平田忠史、平田忠司、坂東、今井、梅本、竹尾、牛田の各君です。

写真2 リフレッシュルーム (元文献室)



写真1 総合研究棟Ⅱ正面玄関



旧農学部校舎1号館が改築

農芸化学コースが長年使ってまいりました旧農学部1号館は、生物資源学部校舎の新築にともない取り壊す予定でしたが、改築の予算がつき耐震補強工事とともに平成一五年四月に総合研究棟Ⅱとして生まれかわりました(写真1)。

栄養化学、土壌学があった1階が保健管理センターとなり、学生実験の天秤室は、就職相談室となりました。また学生実験室は、会議室と入試課となりました。

写真4 総合研究棟ⅡB棟前、旧農学部1号館前、ここで、みこしをつくったり、パドミントンをしたりしていました。今は、敷石が敷かれています(元土壌研究室前)



三翠化学会関係では、小畑先生の土壌圏生物機能学が4階中央(元家畜生産学、武村先生が生命科学研究支援センター機能ジェノミック部門で2階の奥(元農産製造学)、苅田が4階の入り口(元的林産化学)の研究室で仕事をしています。

3階にありました文献室は、壁が取り払われ、リフレッシュルームと呼ばれる空間へと生まれかわり(写真2)、コース事務室があったところにエレベーターが設置されました。旧11番、12番教室、21番、22番教室の間の壁はとりはずされ、自転車のおかれた外側に吹き抜けのホールができ、階段で2階へといけるようになりました(写真3)。



写真3 元11番教室、廊下の壁はなくなり、きもちのよい吹き抜けになりました。(元11番教室、21番教室あたり)

3階にありました文献室は、壁が取り払われ、リフレッシュルームと呼ばれる空間へと生まれかわり(写真2)、コース事務室があったところにエレベーターが設置されました。旧11番、12番教室、21番、22番教室の間の壁はとりはずされ、自転車のおかれた外側に吹き抜けのホールができ、階段で2階へといけるようになりました(写真3)。

卒業・修了生の進路

平成 14 年度 卒業生

- 足立真佑美 東和理化
- 有住 法子
- 一明 雅子 スガキコシステムズ
- 犬飼 康天 名古屋大学大学院生命農学研究所
- 井上知加子 名古屋大学大学院医学研究科
- 上田 マリ 株小松屋
- 白井 弘児 三重大学大学院生物資源学研究所
- 梅下 和彦 三重大学大学院生物資源学研究所
- 太田 政伸 三重大学大学院生物資源学研究所
- 岡田 清文 マリンフード(株)
- 小野 浩 三重大学大学院生物資源学研究所
- 加古慎二郎 三重大学大学院生物資源学研究所
- 川野亜貴子 株イマージュ・レイシア
- 岸野 祐子 三重大学大学院生物資源学研究所
- 坂本 知穂 株ジャストミートコーポレーション
- 神保 哲朗 三重大学大学院生物資源学研究所
- 菅野 淳夫 名古屋大学大学院生命農学研究所
- 杉原 由香 三重大学大学院生物資源学研究所
- 杉本 華幸 京都大学大学院生命科学研究科
- 杉山 泰崇 三重大学大学院生物資源学研究所
- 鈴木 章代 株ヤマミ醸造
- 鈴木 孝典 三重大学大学院生物資源学研究所
- 鈴木理恵子 味の素冷凍食品(株)
- 住岡美由貴 三重大学大学院生物資源学研究所
- 田中 宏典 名古屋大学大学院生命農学研究所
- 田村 雅文
- 中井由佳理 ヤスマ(株)
- 成田 尚宣 三重大学大学院生物資源学研究所
- 西橋 彩 (株)日本食品衛生協会食品衛生研究所 試験検査センター
- 濱保 達彦 三重大学大学院生物資源学研究所
- 平野 弘訓 三重大学大学院生物資源学研究所

- 平原 春水 三重大学大学院医学研究科
- 深谷友加奈 株ウオフク
- 福島 義之 三重大学大学院生物資源学研究所
- 松下詠美子 岡崎鋼機(株)
- 丸井 彌生 東北大学大学院
- 三橋亜由美 東海テクノ(株)
- 美濃部こころ 三重大学大学院医学研究科
- 美濃部さやか 三重大学大学院医学研究科
- 宮本 浩史 三重大学大学院生物資源学研究所
- 山崎 有加 三重大学大学院生物資源学研究所
- 山下 佳伸 三重大学大学院生物資源学研究所
- 近藤 宏美 キューピー(株)

平成 14 年度 博士前期課程修了者

- 荒尾 泰輔
- 荒木 理江 生物資源学研究所博士課程
- 石井 真希
- 石川 謙吾 岐阜県警
- 上野 史子 アベンティスファーマ(株)
- 菊田 琢磨 生物資源学研究所博士課程
- 澤井 浩寿 イチビキ(株)
- 下岡 令実
- 富田 浩揮 JA 西春日井
- 西口 達也 コーシンサービス
- 林 俊道 非常勤講師
- 藤岡 敏明 丸信製粉(株)
- 松岡 寿保 太陽化学(株)
- 山田 弥生 アビ(株)
- 山本 直訓 株クラレ
- 渡邊 雅子 森下仁丹(株)
- SATHAPORN SRICHUWONG 生物資源学研究所博士課程
- SI SI HLA 生物資源学研究所博士課程
- 飯田 正弘

平成 15 年度 博士前期課程修了者

- 秋田 総理 大阪大学大学院博士課程
- 小埜 俊郎 渥美農林高等学校
- 齋藤 辰朗 生物資源学研究所博士課程
- 坂倉 陽 太陽化学工業(株)
- 佐藤千代子 太陽化学(株)
- 杉村 和人 生物資源学研究所博士課程
- 鈴木 淳史 株伊勢萬
- 鈴木 浩之 日本臓器製薬(株)
- 園田 豊治 敷島製パン(株)
- 武田 早織 酒井化学工業(株)
- 中浦 美穂
- 古林 卓也 ファイザー(株)
- 松岡 純子 辻製油(株)
- 松田 文子 エイ・ダブリュ・サービス(株)
- 三谷 朋弘 名糖産業(株)
- 毛利 真由
- 森嶋 克典 宮崎本店(株)
- WAMALWA BENSON MUNY 生物資源学研究所博士課程

平成 14 年度 博士後期課程修了者

- 荒井 隆益 UC Davis 博士研究員
- 川浦 知子
- 徐 孝珍 三重県博士研究員
- 陳 潔梅 暨南大学

平成 15 年度 博士後期課程修了者

- 黒川 純司 三重大学 SVBL 博士研究員
- 神藤 定生 テルアビブ大学博士研究員
- SURUYANI ボゴール農業大学研究員
- 横地 徹次